

# 千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1  
公益社団法人千葉県園芸協会  
連絡先 043(223)3005  
発行日 毎月1日  
令和5年3月号

## 千葉県庁生活協同組合と連携した消費宣伝活動について

公益社団法人千葉県園芸協会  
産地振興部 主事 石井 陸登

(公社)千葉県園芸協会では、千葉県庁生活協同組合及び生産者団体である「千葉県野菜園芸組合連合会」、「千葉県果樹園芸組合連合会」、「千葉県花き園芸組合連合会」「千葉県いちご組合連合会」(以上4団体を以下「連合会」という)と連携し、今年度から新たに千葉県庁中庁舎にて、旬を迎える野菜・果実・花の販売を定期的に行っています。

### 1 はじめに

野菜・果実・花などの農産物は、鮮度が重視され県内消費を拡大することが販売戦略上有効です。また、県産品に関心のある方々に、旬の品目や産地を知っていただくことは、効果的な消費宣伝につながります。このような考えの下、(公社)千葉県園芸協会では、「連合会」と県産品のファン(県職員)が多い「千葉県庁生活協同組合」の橋渡し役となり、県庁中庁舎において3者が連携した消費宣伝活動を実施することとなりました。

### 2 取組の内容

今年度は、これまで以下のとおり消費宣伝活動を実施しました。

いずれの品目も購入者からは大変好評で、すべて完売となり、早い日には開始後10分で売り切れることもありました。購入者からは、「県内産のものを意識して買うことがなかったので実際に食べるのは楽しみ」、「前回の品目がおいしかったからまた来た」などの感想をいただくことができました。

また、協力いただいたJA・生産者からは、「これほど売れ行きがよいとは思わなかった」、「県内の消費者にアピールするいい機会になった」、「普段は消費者の顔を見ることがないため、良かった」、「機会があれば他品目でも取り組みたい」等の意見がありました。

### 3 今後の取組について

今後は、いちごの販売も予定しています。

また、次年度以降も引き続き、各連合会の要望を踏まえ消費宣伝を行う予定です。

千葉県園芸協会では、今後も各地域の農産物をPRし、県産農産物のさらなる認知度向上に取り組んでまいります。



4月 トマト販売



6月 メロン販売



9月 雹害果梨販売



12月 花き販売

生産者団体	実施時期	協力JA等	販売品目
千葉県野菜園芸組合連合会	4月	JA長生	「恋トマト」・「長生トマト」
	5月	JA山武郡市	そら豆・とうもろこし
	6月・7月	JAちばみどり	「アムスメロン」・「貴味メロン」
	2月	JAかとり	さつまいも
千葉県果樹園芸組合連合会	8月・9月	JAいちかわ・JAとうかつ中央	梨 ※降雹害への販売支援
	10月	JA市原市	いちじく
千葉県花き園芸組合連合会	12月	JAきみつ 花き生産者(南房総市、成田市)	カーネーション・キンギョソウ カラー・トルコギキョウ
千葉県いちご組合連合会	調整中	詳細調整中	詳細調整中

花植木ニュース



## 「花き技術・経営コンクール」で 農林水産大臣賞を受賞

千葉県農林水産部 生産振興課 園芸振興室

令和5年2月3日、(一財)日本花普及センターが主催する「第32回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクール」において、南房総市のカーネーション農家である三井清和さん・てるみさん夫妻が、最高賞である農林水産大臣賞を受賞しました。おめでとうございます。

### 1 「花き技術・経営コンクール」について

我が国の園芸の将来を担い、かつ国民生活に潤いと安らぎをもたらすものとして重要な役割を担っている花きについて、生産分野の技術・経営の向上・発展を図ることを目的に、毎年開催されています。

本県では、今回を含め過去4回入賞しており、このうち農林水産大臣賞は平成18年度に丸朝園芸農業協同組合花卉部(山武郡芝山町)が受賞して以来、16年ぶり2回目となります。

令和5年2月7日、県庁にて館野農林水産部長より賞状等の代理授与を行いました。



農林水産大臣賞の授与(2月7日・千葉県庁)

### 2 受賞者

三井 清和 氏

三井 てるみ 氏

(南房総市富浦町 屋号：三和園)



中央の2人が三井清和さん・てるみさん夫妻  
(左は長男の清杜さん、右は母の利江さん)

【写真提供：(一財)日本花普及センター】

### 3 受賞者の概要

経営主の三井清和さんは、カーネーション農家の2代目として昭和54年に就農、妻のてるみさんは、結婚を機に昭和63年に就農しました。

現在の栽培施設面積は約5,600㎡、年間出荷量は約96万本(令和3年)で、カーネーション農家としては県内最大規模を誇ります。

栽培面では、地域に先駆けて養液土耕栽培を導入し、近年ではスマート農業技術などの最新技術を積極的に導入して使いこなすことにより、高品質・高収量生産を実現しています。経営面では、平成11年に地域で先駆けて家族経営協定を締結するとともに、雇用労働力の導入による規模拡大等により高収益・安定経営を実現しています。

また、清和さんは、令和3年7月から千葉県花き園芸組合連合会の会長に就任し、生産改善や販売対策、消費拡大活動等、本県の花き振興に尽力されています。

審査講評では、「近年の輸入カーネーション販売割合増加の中で、創意工夫により安定した生産経営を維持していること、雇用や環境に配慮した生産を実施していること、過去3年間において出荷数量、経営収支ともに安定していること、地域の花き生産振興に寄与していることなどが高く評価され、農林水産大臣賞に相応しい花き生産の模範となる経営体である」と締めくくられており、本県はもとより全国に誇る花き経営体として高く評価されました。

果樹ニュース



## DMI 剤耐性ナシ黒星病菌の 簡易なモニタリング法の開発

千葉県農林総合研究センター  
病理昆虫研究室 研究員 青木 由

DMI 剤はナシ黒星病に対する効果的な薬剤ですが、他県では DMI 剤が効きにくい耐性菌が発生して問題となっています。適切な防除を実施するには、耐性菌の発生実態を把握することが必要です。そこで、生産現場でも実施可能な簡易なモニタリング法を開発したので御紹介します。

### 1 DMI 剤耐性ナシ黒星病菌の発生状況

ナシ黒星病は、果実に発病すると商品外観が著しく低下することから、梨栽培において最も重要な病害です(写真1)。このため、様々な防除薬剤が開発されてきました。中でも DMI 剤は、ナシ黒星病に対し高い防除効果を示していた薬剤ですが、すでに国内では実用上問題となる耐性菌が発生しています。本県では、DMI 剤耐性菌の発生は確認されていませんが、近年黒星病の発生が多くなっており、耐性菌の発生リスクが高い状況です。耐性菌対策が後手に回らないようにするためには、その発生実態を把握することが重要ですが、従来の黒星病菌の薬剤耐性菌判定には、菌の培養や接種などの技術や専用装置が必要です。



(写真1) 黒星病の分生子(左)と発病果(右)

### 2 生産現場で実施可能な簡易な手法の検討

ナシ黒星病はどここのほ場でもよく見られる病気ですが、DMI 剤耐性菌が発生していなければ、DMI 剤や保護殺菌剤の適切な散布により、黒星病の発病を抑えることができます。しかし、DMI 剤耐性菌が発生している場合は、DMI 剤による防除効果は期待できず、保護殺菌剤を散布した場合に比べ、黒星病の発病が多くなることが想定されます。そこで、あらかじめ DMI 剤を散布した鉢苗と他の薬剤を散布した鉢苗を用意し、栽培ほ場に置き、それぞれの黒星病の発病程度を比較することで耐性菌の発生を把握する方法を考えました。

### 3 簡易なモニタリング法の実施方法

4月下旬にナシ園外で予め DMI 剤のスコア顆粒水和剤 4,000 倍を散布したナシ鉢苗と、保護殺菌剤のベルコートフロアブル 1,500 倍を散布した鉢苗及び殺菌剤無散布の鉢苗をほ場内のナシ棚下に隣り合うように設置します(写真2)。薬剤の残効が切れないようそれぞれの鉢苗にはおおむね 10 日間隔で同一薬剤を散布し、無散布の鉢苗で十分な発病が見られた段階で、黒星病の発病を調査します。前述のとおり、保護殺菌剤を散布した鉢苗に比べ、DMI 剤を散布した鉢苗で明らかに黒星病の発病が多ければ、耐性菌が発生している可能性があり、より精度の高い試験方法による検定を実施する必要があります。



(写真2) ほ場設置状況と無散布区の発病葉

### 4 簡易なモニタリング法の留意事項

このモニタリング法は、農業事務所などの指導機関が生産者と協力して実施することを想定しています。鉢苗の品種は、黒星病に対して感受性の高い「幸水」などを用います。ほ場内の通常防除時には鉢苗に薬剤が付着しないようビニル袋で覆います。鉢苗に害虫が寄生したら、殺虫剤で防除します。調査の終了後は、鉢苗が黒星病の発生源とならないよう速やかにほ場から撤去します。



# 千葉県における温州ミカン「興津早生」の隔年交互結実法の導入

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所  
特産果樹研究室 研究員 横山 瑛

温州ミカン「興津早生」における隔年交互結実法の導入には、導入初年度の全摘果には樹の貯蔵養分に左右されにくいフィガロン乳剤（摘果剤）の利用が適しています。生産樹では、慣行栽培樹の目標収量の2倍の収穫量を得ることが可能です。

## 1 はじめに

千葉県南部において温州ミカンは秋から冬にかけての重要な観光・直売品目です。温州ミカンは結果数が多い年(表年)と少ない年(裏年)を繰り返す隔年結果性が強く、生産量の年次変動が大きい傾向があります。この隔年結果性を利用して、樹を生産樹(着果させる樹)と遊休樹(着果させない樹)に分け、毎年交互に結実させる隔年交互結実法が、西日本のいくつかの産地で取り組まれています。生産樹と遊休樹に分けることで、生産樹への管理作業の集約化や遊休樹への農薬散布低減等が見込めます。

そこで、千葉県の主力品種である「興津早生」を用いた隔年交互結実法について、導入時の遊休樹の効率的な摘果方法と、生産樹の収量性について調査しましたので、紹介します。

## 2 植物成長調整剤を利用した遊休樹の全摘果

遊休樹では、導入初年度には全摘果を行う必要があるため、作業負担が大きくなります。そこで、全摘果の省力化を図るため、植物成長調整剤ジベレリン(ジベレリン粉末、住友化学(株))の冬季(12~1月)散布による花数抑制効果及び摘果剤フィガロン乳剤(日産化学(株)、以下フィガロン)の満開18~20日頃散布による摘果効果を、暖地園芸研究所ほ場で植栽されている「興津早生」(約50年生)を用いて調査しました。

平成30年及び令和元年度の試験では、ジベレリンによる花数抑制効果は不安定で、樹体の栄養状態が影響していると考えられました(データ略)。具体的には、前年の着果数が少なく貯蔵養分が多いと推測された樹では、花数が著しく多くなり、ジベレリン散布による花数及び着果数低減効果は低いと判断されました。一方、フィガロン散布では、貯蔵養分が多いと推測された樹においても、高い着果数低減効果が確認されました(図)。このことから、導入初年度の全摘果では、フィガロンの利用が適していると考えられました。

## 3 生産樹の着果管理方法

隔年交互結実法では、生産樹は慣行栽培樹の目標収量の2倍を得る必要があります。慣行栽培樹の1樹あたりの目標収量を105kg(3t/10a)とした場合、生産樹の目標収量はその2倍の210kgとなります。そこで、手作業による摘果を一切行わず管理した7樹(無摘果樹)について、規格別収量を調査しました。

供試した7樹の1樹あたり平均収量は227kgでした(表)。このことから、生産樹において慣行栽培の目標収量の2倍を得ることは可能と考えられました。ただし、2S以下の果実割合が3割近くあったため、仕上げ摘果(8月)及び樹上選果(10月)による小玉果(及び極大玉果)の除去は必要です。

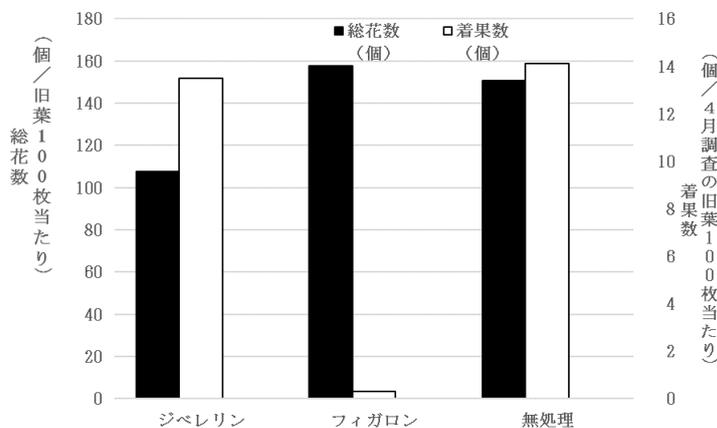


図 貯蔵養分が多いと推測された樹での植物成長調整剤散布による総花数、着果数

- 注1) 調査日：総花数は4/22、着果数は6/22, 23  
 2) 枝の先端50cmを調査  
 3) ジベレリンは2.5ppmを展着剤スカッシュを混用して令和2年1月15日に散布  
 フィガロンは1,000倍をエスレル10の2,000倍を混用して同年5月25日に散布

表 無摘果樹における規格別収量(令和2年度)

各樹の処理	収穫個数 (個/樹)	規格別収量(kg/樹)			全収量 (kg/樹)
		2S	SML	2L以上	
無摘果樹平均	2,621	60(26)	142(62)	25(11)	227

- 注1) 供試樹は7樹  
 2) ( )内の数値は全収量に占める割合(%)を示す

## 4 まとめ

隔年交互結実法では、導入初年度に生産樹と遊休樹に分ければ、翌年以降は隔年結果によりそれぞれが裏と表を交互に繰り返すことになり、着果管理の省力化を図ることができます。導入を検討される場合、まずは小規模で試験的に取り組み、それぞれのほ場、樹体における生産樹の収量性や遊休樹の着果抑制状況を確認してみてください。



## 世代交代に向けた事業承継セミナーを開催

千葉県農業者総合支援センター 副主査 飯田 拓也  
(千葉県農林水産部担い手支援課)

千葉県農業者総合支援センターでは、農業者の世代交代に伴う事業承継を円滑に行ってもらうことを目的として「農家のための事業承継セミナー」を開催しました。

### 1 取組背景

農業者の減少と高齢化が深刻化する中、地域農業を継続していくためには、世代交代に伴う円滑な事業承継が必要不可欠です。しかし親子間で十分な話し合いをした上で、農地や施設、経営方針などの承継を進めている方は少ない現状です。

千葉県農業者総合支援センターでは、農業者に事業承継について早い段階から考えてもらうきっかけを提供していく必要があると考え、事業承継の進め方や具体的な実践方法について学ぶためのセミナーを令和3年度から開催しています。

### 2 セミナーの内容

令和3年度から3回のセミナーを実施しました。

令和3年7月20日 参加者 46名	承継の基礎知識(進め方・心構え)を広く解説。
令和4年2月2日 参加者 30名	農業後継者を対象とし、後継者視点の進め方を解説。
令和4年8月2日 参加者 68名	事業承継ブックを活用した進め方と、承継経験者による意見交換。

令和4年度はJA全農ちば、(一社)千葉県農業協会、農林中央金庫千葉支店と共催で、JA全農が作成した「事業承継ブック」を用いたセミナーを開催し、農業者や関係機関職員など延べ68名が参加しました。

セミナーでは講師から事業承継を進めるためのポイントについて説明がありました。また、承継経験者によるパネルディスカッションも行い、

自らの経験に基づく苦労話や、参加者に向けたアドバイスをいただきました。

参加者からは「改めて家族と話し合う必要性を感じた」といった声が聞かれ、円滑に事業承継を進めてもらうためのきっかけとなるセミナーになりました。



### 3 今後の活動

支援センターでは、引き続き事業承継の取組を推進するため、今後も事業承継セミナー等を開催する予定です。

また、承継の進め方までの流れや活用できる制度等をまとめたリーフレットを作成しています。詳細は以下ホームページから御確認ください。

#### 【ホームページ】

農業者向け「事業承継リーフレット」を作成しました！

[https://support.chiba-agri.com/useful/2021/07/09/post\\_10/](https://support.chiba-agri.com/useful/2021/07/09/post_10/)



## 新・農業人フェア

公益社団法人千葉県園芸協会

千葉県新規就農相談センター（千葉県園芸協会・千葉県・千葉県農業会議）は、就農相談の一環として、国内最大規模の就農相談イベント新・農業人フェア（東京会場）に毎年出展しています。

新・農業人フェアは、農業の初めの一步を踏み出そうとしている方や就農に動き出した方が相談に訪れる相談会です。

千葉県新規就農相談センターでは、全国から集まる就農希望者に、千葉県の農業の特徴や千葉県での就農の魅力を伝え、その後に開催する千葉県版の就農相談会の案内や県内各地の相談窓口の紹介など次につながる相談活動をしています。

令和4年度は3回（7/23、10/23、1/14）出展し、各回平均45組・計133組の相談に応じました。千葉県ブースは人気が高く、毎回順番待ちの列が発生しており、千葉県での就農に興味を示す方が

とても多いと実感しています。相談者の多くは千葉県・東京都を中心とした関東近在の社会人で、今の生活を基本に就農を考えたい方が多い傾向となっています。

漠然と農業に魅力を感じている方、就農に意欲的な方、研修の場所・農地の取得に悩んでいる方、雇用就農先を探している方、親（祖父母）の農地を継ぐことになるがうまくいか心配な方など相談は様々です。

今後も、千葉県の就農に興味を示し相談に訪れる方々に千葉の大地で農業を始める魅力を伝える活動を続けてまいります。

## 第43回千葉県フラワーフェスティバル 花き共進会結果報告

千葉県農林水産部生産振興課

令和5年1月6日に行われた第43回フラワーフェスティバル花き共進会の審査結果は次のとおりです。

- 出品点数376点（鉢花97点、観葉25点、洋らん50点、切花1部66点、切花2部138点）
- 入賞73点（特別賞31点、金賞42点）
- 奨励賞2点（鉢花部門、切花2部）

### 主な特別賞受賞者

賞名	品目	受賞者	市町村
農林水産大臣賞	シクラメン	竹之内範人	船橋市
千葉県知事賞	フィカス	高橋 繁之	九十九里町
千葉県議会議長賞	きんぎょそう	渡辺 匡義	南房総市
農林水産省農産局長賞	カトレア	布施 源哉	山武市
農林水産省関東農政局長賞	カラー	勝 美雄	君津市
(公社)千葉県園芸協会会長賞	ファレノブシス	鏑木 義博	香取市
NHK千葉放送局長賞	ストック	桜井 大地	館山市
千葉県農業協同組合中央会長賞	モンステラ	古川 浩信	山武市
全国農業協同組合連合会千葉県本部長賞	オリエンタルユリ	太田 明美	館山市
千葉県農林総合研究センター長賞	ミニシクラメン	遠藤 丈博	袖ヶ浦市
千葉県花き園芸組合連合会長賞	ダリア	(株)金井園芸	南房総市



農林水産大臣賞 シクラメン

徒長しやすい品種でありながら、株がよく締まり、花首も伸びすぎず、しっかりとまとまっています。

ピンクのフリルとそれを縁取る黄緑色が愛らしく、可愛らしさと同時にゴージャスな雰囲気が見ごたえのある一株です。

他20賞